

改善計画書

1. 趣旨

本計画書は、名古屋地域循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書の「1 目標達成状況」において、未達成となった項目について、その要因を分析するとともに、今後の目標達成に向けた方策等にかかる計画を定めるものである。

2. 目標未達成項目

目標未達成項目は以下のとおり。

指 標		目標 (A)	実績 (B)	実績/目標 (B/A)
排出量	事業系 総排出量	182,446t(-13.4%)	216,326t(2.7%)	118.6%
	1事業所あたりの排出量	1.37t(-13.5%)	1.62t(2.5%)	118.2%
再生利用量	直接資源化量	4,270t(0.6%)	3,936t(0.5%)	92.2%
	総資源化量	307,906t(41.6%)	200,626t(27.1%)	65.2%
最終処分量	埋立最終処分量	42,525t(5.7%)	54,211t(7.3%)	127.5%

3. 目標未達成の要因

(1) 排出量 (事業系)

- 景気回復により排出量が増加したため。
- 紙類、飲食店などの生ごみの資源化が進まず可燃ごみとして排出されたため。

(2) 再生利用量

- インターネット、タブレット端末等の普及による新聞の発行部数、雑誌の販売部数が落ち込み、集団回収量等が減少したため。
- プラスチック製包装容器や紙製容器包装の資源分別率が低下しているほか、古着・古布や雑がみの資源分別率が低迷しているため。
- 容器包装リサイクル法ルートを通じた分別・リサイクルを進めることにより、拡大生産者責任が徹底され、製造メーカーによる容器包装の軽量化が進んだため。

(裏面に続く)

(3)最終処分量

- 上記（１）、（２）により、焼却処理量が増加したことにより、最終処分量が増加したため。
- 五条川工場の灰溶融設備の整備が長期間となったことから、稼働率が低下し、溶融処理による焼却灰の資源化が進まず最終処分量が増加したため。

4. 目標達成に向けた方策（目標達成年度 平成 33 年度まで）

(1)排出量（事業系）

- 引き続き、事業系ごみの資源化を促進するための広報・啓発を行う。
- 排出量の大部分を占める名古屋市では、紙類と生ごみを重点品目として位置づけ、大規模事業所、多量排出事業者に対しては、立ち入り調査等による指導を行い、中小事業者に対しては、排出実態を把握することにより、広報・啓発を充実させることで排出量の削減に取り組む。

(2)再生利用量

- 引き続き、市民に対して分別・リサイクルについての広報・啓発を行うほか、環境教育を通じて 3 R の重要性を伝えていく。
- 排出量の大部分を占める名古屋市においては、ごみの処理量やコスト、分別した資源の行方等を「見える化」し、分かりやすく示すことで、3 R に取り組む意義について広報・啓発を行う。また、プラスチック製包装容器、紙製包装容器、古着・古布、雑がみを重点品目として位置づけ、市政の情報が伝わりにくい市民やワンルームマンション・共同住宅の居住者等に対して集中的に広報・啓発を展開することにより、分別・リサイクルの取り組みを推進する。

(3)最終処分量

- 上記（１）、（２）の方策に取り組むことにより、焼却処理量を削減し最終処分量の削減に努める。
- 灰溶融設備の計画的な整備や運転管理に取り組むことにより、安定稼働に努め焼却灰の資源化量を増やす。
- 平成 32 年度に稼働を予定している北名古屋工場（仮称）において、自工場で発生する焼却残さの全量資源化を図る。

改善計画書に対する都道府県知事の所見

排出量のうち事業系排出量については、目標を達成することができなかった。これは、排出量の大部分を占める名古屋市を中心に、景気回復の影響により事業所からの排出量が増加したことなどが要因と考えられる。

再生利用量については、目標を達成することができなかった。目標を達成できなかった要因の一つとして、新聞の発行部数や雑誌の販売部数が減ったことによる集団回収量等の減があげられており、この点は、愛知県内における紙類（紙パック・紙製容器包装を除く）の再生資源化量が、平成 23 年度の 309,102 t から平成 26 年度の 270,821 t へと減少していることと一致しており、県全体の傾向として捉えることができる。

最終処分量については、目標を達成することができなかった。しかしながら、基準年（平成 23 年度 60,379 t）と比較すると、10.2%減量されており、最終処分量の減量化に関する施策について、一定の成果が出ているものと認められる。

今後は、改善計画書に掲げられた方策など、非達成項目に関する施策を中心に充実し、さらなる循環型社会の形成推進に努められたい。

県においても、必要に応じて助言するなどの支援を行っていく。